

とんぐい村の こみ・すく通信

令和4年4月25日発行

令和4年度 第2号

更別村コミュニティ・スクール委員会事務局(教育委員会)

子どもたちの心に刻まれた思い 地域の方から学んだ「命」のこと 更別村の歴史のこと

「生きる」ことを考える

さらべつほーぷの代表である山田医師が、ほーぷのメンバーと共に中3の生徒に授業をしてくださいました。

1人1人がかけがえのない存在としてこの世に生を受け、誰にも肩代わりすることのできない物語～人生を生きています。終わりがあるからこそ、自分の物語も他の人の物語も大切にしてほしい。



地域には、いろいろな知識や技術をもつ方々がいらっしゃいます。そういう方が、子どもたちのために学校に来て講話や授業をしてくださる時、子どもたちの視野がひろがったり心に大きな変化をもたらしたりします。

中学校3年生が卒業を控えた3月に、2人の地域の方が講師として更別中央中学校に来校してくださった時の様子と生徒の感想をご紹介します。

生徒の感想から

- お医者だから話せることや自分の実体験を出しての説明もとても分かりやすかった。
- これから親元を離れて生活する私にとって改めて自分を大切にすべきだと考える時間になった。
- 自分らしく生きるために体や心を大切にすることを学んだ。生きることや死ぬことについて学べるよい機会になった。
- 生と死について理解するととても大切な時間だった。
- 生きられることが当たり前じゃないと改めて感じた。
- 一人一人にそれぞれの人生の物語があり、命の重みを忘れず自分の人生を大切に生きていきたいと思った。

生徒の感想から

- 先人の方々がたくさんの苦労がある中でも、粘り強く一生懸命に開拓を進めてくれたということに改めて分かった。
- 現在の土地は、先人たちの血と汗と涙の結晶ということが分かった。厳しい生活の中でこの「更別」を開拓してくださった先人の方々に改めて感謝をしたいと思った。これからは、私たちがこの村をよくしていきたいと思った。
- 住みづらかった村をこんなに住みやすい村にしてくれて良かったと思うし、これからもこの村を好きでいたいと感じた。
- どんな困難でも勇気を出して知恵をつかうことで乗り越えられることを学んだ。自分もめげずに、いろいろなことに挑戦してみようと思う。
- もっと更別を知りたいという気持ちになった。
- これからも更別を「ふるさと」として、またいつか戻ってこようと思う。

更別村を拓き現在の繁栄を築いた先人に学ぶ

更別中央中学校の全校生徒が、役場の阿部義昭さんに来校いただき、更別村の開拓や分村独立に貢献した

山田・原・川口氏のことや入植した人々の苦労について詳しく伝えていただきました。



土地も気候も厳しい更別村で、おじいちゃんおばあちゃんが頑張って更別村をつくってくれました。助け合わなければ住み続けられなかった。

なんでも一生懸命で前向きに取り組む気持ちは、皆さんにも引き継がれています。

「更別村七十五年史」を担当している阿部さん。1人1人の質問に対して、1つ1つ文章にして丁寧に答えてくださいました。